

園長先生の子育てひろば

令和4年6月

自然物と人工物

園長 山中 文

園だよりの6月号にも書いたことですが、幼稚園南側の園庭には、砂場の横に大きな石がごろごろしています。

なぜあんなにあるのでしょうか。

実は、これは、昨年度の年少さんの大きな「お仕事」のあとです。南側園庭には、木登りして滑り台のように滑るのにちょうどいい木があります。でも、その木のまわりは漬物石のように大きな石たちで花壇のように囲まれていました。木登りしたい年少さんたちが滑りまちがえたら、石に頭をぶつけそうです。ある日、「危ないねえ」と話していたら、「石、どけちゃえ！」となり、年少さんみんなで精出してとりのぞいたのでした。

そのとりのぞき作業は年少さんには大きな学びであり、木登りも大成功になったのですが、さらにその取り除いた石たちはとてもいい遊びになりました。さっそく、石をまな板に見立てて葉っぱを刻んだり、泥団子づくりの作業台にしたりがはじまりました。

その様子を見て、年少の教師は、とりのぞいた石たちをそのまま置いておくことにしました。すると、先のような遊びだけでなく、持ち上げようにもびくともしない重さにたじろいだり、なんとか動かそうとしてじりじりとずらすようにして動かしたりするなどしてかかわる姿がみられるようになったのです。

これはおもしろいことです。子どもたちは、どのくらい重いのかということを体感し、それを動かす方法を工夫しているのです。重いので持ち上がりはしませんが、重さを体感して危険予知の感覚が育つのか、ずらす時に怪我をしたりすることもありません。

子どもたちがよく手にする人工のおもちゃの多くは、使用の目的にそって作られており、それに応じて楽しんでいくようにできています。それ以外で使用したり発達段階に沿わない使い方をしたりすると、壊れてしまったり、思わぬ怪我や事故につながったりすることがあります。たとえば、電車のおもちゃはレールの上を走らせたりして遊ぶことを念頭につくられていますから、投げて遊ぶおもちゃにはなりません。お人形はまとまと遊びのようには遊びますが、レールの上は走りません。

それに対して、自然物には目的がありません。様々な角度からの刺激に応じて目的も用途も変化します。想像からいろんなものにも見立てられます。先ほどの石たちも、いろいろな扱われ方をしながら、子どもたちの仲間関係、道具としての使用、重さの体感、持ち運びの工夫などにオープンエンドにかかわっていました。

自然物と人工物、どちらも子どもにはおもしろいおもちゃになります。自然物の方は忘れられたり汚れることを気にされたりすることもありますが、どちらも取り入れていきたいですね。